

「第 60 回地盤工学研究発表会」で、3 件の講演

1966 年から続く、地盤工学会の年次大会

「確かな技術で、社会づくりに貢献する」をミッションに据える株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング（本社：東京都台東区、代表取締役社長：遠藤一郎、以下 ATK）では、大切にしている価値観（バリュー）の一つとして、「品質・技術力で勝る会社になる」を掲げ、社員は自己研鑽に励んでいます。

2025 年 7 月 22 日～25 日に開催された「第 60 回地盤工学研究発表会」（主催：公益社団法人地盤工学会）では、ATK 社員による 3 件の講演を行いました。概要は以下の通りです。

【一般セッション】 カテゴリー：地下水調査

小口径対応型地下水流向流速計の 現場適用性について 大森 将樹、山口 寛央、藤森 研治	従来の流向流速計は、測定条件（地下水流速、ストレーナー開口率等）が定められているものの、実務上は既設観測孔での測定等条件が曖昧なことが多く、その適用性、結果の評価に問題を抱えていた。 新型地下水流向流速計の開発にあたり、利用されることが多い VP50 観測孔を対象とし、室内実験による適用性の検証を行った。さらに、現場での計測機動性を高めるため小型軽量化も併せ持つ小口径対応型地下水流向流速計（L-40 型）を開発し実用化を進めた。
---	--

【ディスカッションセッション】 カテゴリー：住宅地盤問題の解決への道筋を考える

地盤品質判定士の最近の動向と 今後の展開に関する私見 小田部 雄二 (地盤品質判定士協議会へ出向中)	住宅地盤には、一般的な土木構造物の地盤とは異なった様々な制限条件があるため、常に最善の条件、最良の手法で住宅地盤を築造できるわけではない。そのような中、より良い住宅地盤を提供し、宅地地盤災害を少なくしていくためには、住宅地盤ならではの技術的・金銭的・法律的問題等を正しく把握し、適切な対応策を模索していく必要がある。 このセッションでは、住宅地盤が抱える諸問題を共有し、それらを解決するために関係者が活動していく方針を議論、また、住宅地盤の土地取引時における課題と解決策についても言及した。
--	---

【ディスカッションセッション】 カテゴリー：「デジタルセンシング技術」による評価手法とその利活用

鉄道斜面における 斜面管理の新たな取り組みについて 片山 輝彦、藤森 研治	地盤工学は、本来「不均質で見えない地盤の可視化・定量評価」を目指す学問分野であり、デジタル評価技術の普及は、従来の地盤評価手法に大きな変革をもたらす可能性を秘めている。 本セッションは、デジタルセンシング技術および評価技術の普及に伴って顕在化する課題を共有し、その解決に向けた糸口を探ることを目的として開催された。ATK にて開発中の斜面モニタリングシステム「ATK-SAMS」を用いた鉄道切土斜面における計測事例を紹介するとともに、傾斜センサおよび土壌水分センサを活用した斜面管理システムの今後のあり方について提言を行った。
---	---

以上